

# 会 議 録

## 1 会議名

平成29年度第2回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【協議事項】

平成29年度地域活動支援事業について（公開）

## 3 開催日時

平成29年5月16日（火）午後6時00分から午後7時47分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、竹内明美（副会長）、増田和昭（副会長）、  
青山義一、泉 秀夫、磯田一裕、今川芳夫、河野健一、久保田幸正、  
田中美佳、田村利男、田村雅春、中澤武志、水澤敏夫（欠席4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、荒木係長、星野主事

## 8 発言の内容

### 【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【青山恭造会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：今川委員、久保田委員に依頼

議題【協議事項】平成29年度地域活動支援事業について、事務局へ説明を求める。

### 【荒木係長】

- ・本日の進め方について説明
- ・各提案書（14件）に基づき概要説明

**【青山恭造会長】**

それでは、各提案に対し、意見や疑問点等があるか確認していく。

最初に「No.1 篠笛を普及し地域文化に貢献する事業」について、何かあるか。

**【田村雅春委員】**

関係町内会としての知見をお聞きしたいのだが、篠笛を習得するのは難しいのか。

**【青山恭造会長】**

個人差があると思うので何とも言えない。

**【泉委員】**

中澤委員に聞きたいのだが、趣旨としては分からなくないが、県の指定無形民俗文化財に指定されたから、それをきっかけにしたい、というのは分かる。だが、それと併せて普及ということも考えているようで、主旨があまり明確ではない。私たちとしてやってほしいことは、笛そのものが成長してほしいのであれば、そのようにやってほしいし、その辺が相当乱れているという見解があるのか教えてほしい。

**【田村雅春委員】**

それと併せて、提案書には講師料が計上されていない。そんなに簡単なのか、難しいのか、その辺の知見もお聞きしたい。

**【青山恭造会長】**

祇園祭が近くなってくるので、各町内で練習が始まると思う。その際に使う篠笛は各町内で持っており、それを子どもに貸出ししているが、各町内のやり方を統一しようということか。

**【荒木係長】**

各町内での祇園囃子のやり方があるので、それを統一させようというわけではなく、童謡や民謡等を取り入れ、幅広く普及させたいということである。

**【青山恭造会長】**

祇園囃子は各町内で持っているが、当事業は、違うこともやるので、そのために篠笛が欲しい、ということなのだと思う。

**【中澤委員】**

問題は、こういう笛は各町内で買って、個人持ちでやっている。直江津の祇園祭の良

いところは、町内で先輩が後輩に教えたり、青年会が子ども達に教えたりしていて、そこでコミュニケーションが生まれている。

当提案はとても良い提案だと思っている。目的も、篠笛を普及させたい、ということであるが、8本の笛を買い、町内だけで使うのか、今後、他の町内でも使っていくのかと考えると、町内で買う、というところに留めておいてほしい。併せて、笛の曲調が町内で違うという話もあるが、そこを修正していくというのは別の話である。

**【青山恭造会長】**

それでは、その辺は質問票で出していただき、回答を見てヒアリングをするかを協議したい。

次に「No.2 クリーンナップ上越 in 五智事業」についてはどうか。

**【中澤委員】**

当事業は、地域活動支援事業の補助金が始まった当初から提案されているが、継続事業のあり方について、地域協議会としてどうなのか、という問題がある。

**【青山恭造会長】**

そろそろ自立していただきたいという気持ちはある。

**【泉委員】**

考え方としては、市民の皆さんのお知恵を拝借しながらまちを良くしようということで、立ち上げる時には、当然、費用の面でもバックアップしたい。逆に言えば、1回バックアップすれば、少なくとも3回くらいはバックアップしなければいけないと思っている一方で、やはり自立していただきたいとも思っている。年々、事業が拡大していくことは望ましいことだが、我々地域協議会として、もう一度地域活動支援事業に対する考え方について再認識しなければいけない時期なのではないかと思っている。

**【磯田委員】**

1日だけのイベント事業に対して、当補助金をどれだけ投入していいのか。あるいは、継続していく中で、どういう進化をしていっているのかというところも見ていかないといけないと思う。そうでなければ、「去年採択されたのに、何故今年は駄目なのか」ということも出てくると思うので、その辺の線引きの仕方を考えていかななくてはいけないと思う。

**【青山恭造会長】**

確かにそのとおりだと思う。変な方向に拡大しては困るので、補助の限度を決めてお

く必要はあると思う。

**【田村利男委員】**

当補助金は、我々の税金である。地域活動の行事等に委員も参加し、実態を見て、今後について考える必要があるのかもしれない。

**【泉委員】**

今まで、実施された各事業の検証を行ってこなかった。それは1つの反省であって、何らかの機会にやるべきだと感じた。

**【青山恭造会長】**

では、それも踏まえて質問票に書いていただきたい。

次に「No.3 『米作り体験』事業」についてはどうか。

(特になし)

次に「No.4 直江津駅前環境美化推進事業」についてはどうか。

**【青山義一委員】**

基本的に、駅前に花を植えるのも、海岸線沿いに花を植えるのも、継続している事業については、先程出された意見と同じような考え方があると思う。

**【青山恭造会長】**

次に「No.5 五智公園の整備、有効活用支援事業」についてはどうか。

**【田村利男委員】**

先日、事業の該当場所に行ってきたが、やはり、もう少し整備が必要だと感じたので、私は、当事業については、進めていただきたいと思っている。

**【田村雅春委員】**

今年から、五智公園の整備については、市が本腰を入れてやるということだが、提案書を見ても、市との棲み分けが見えてこない。皆さんはどう思うか分からないが、私は、パネルの作成や草刈り、植物の保護については「公園整備」に入ると思うので、市がやるべきなのではないかと思った。

**【水澤委員】**

草刈りについては、一部、上越市で行っているが、あとは、全て五智公園を育てる会で行っているので、その辺の棲み分けが大事になってくると思うし、あとは、自立をしていかないと長く続かないと思っている。

**【泉委員】**

確認したいことは、補助希望額が15万6,000円になっているが、この金額だけで五智公園の整備を行っているのか。何故かと言うと、私は何年も金谷山で桜の木を植えている。それに比べると15万6,000円というのは少なく感じる。

**【水澤委員】**

補助金だけではやっていない。ただ、当補助金がないと、だんだん先細りしてしまうので、継続事業についても考え方を変えていかないと潰れてしまう。

**【磯田委員】**

考え方の整理についてだが、公園整備なのだから、来訪者へのおもてなしや仕掛け作りは本来、市がやるべきことだから、当提案自体がなくてもいいのではないかと、という結論になるのだとすれば、そこはじっくり議論する必要があるのではないかと考えている。

先回の地域協議会での市からの説明で、ハード整備については市がやる、という話だったが、都市整備課自体は、足りないところは当会や市民の方たちから担ってもらいたいという思いがあり、担うにあたっての資金として、当補助金が適正かどうかという判断をすればいいのではないかと。今までも、そこに特化して判断してきたのだと考えている。

そして、市が全てをやっていくわけではなく、先導的に市民の方たちから動いてもらい整備していく中で、市もその気になっていくという側面があるかと思うので、ある程度提案者に寄り添って考えていけばいいのではなかと思う。

**【田村利男委員】**

五智公園はかなり広さがあるので、一括りにできるようなところではない。やはり細かいところを棲み分けしていかないと、公園全体を整備するのは難しいと思っている。

**【増田副会長】**

植物の名前や看板を掛けるというところまでは、行政では手が回らないので市民団体がやるということは分かる。ただ一つ疑問に思うことは、樹木を保護・育成するために林を整備するとあるが、そのために、去年はチェーンソーを買い、今年は草刈り機を買い、そこまで補助金を出すのか。そこは、本来行政の仕事で、これからの4か年計画の中でしっかりと計画を立ててやるべきだと思う。その区分けは必要だと思っている。

**【青山恭造会長】**

では次に「No.6 昭和・平成の直江津の自然災害等の検証と今後を見据え伝える事業」

についてはどうか。

**【中澤委員】**

昔のことを語り継ぐことは大事なことになるので、これは応援したいと思っている。

**【泉委員】**

確かに古老の話をまとめるのは、非常に重要なことである。だが、趣味でやっている場合と、公共性を持ってやっている場合が混在してしまう時がある。直江津町史があり、そこにも詳しく載っているが、その辺との兼ね合いをしっかりと把握していただくためには、教える側も知識を持っていないといけない。

**【荒木係長】**

会員の中に、図書館の司書を経験された方がおり、その方を中心に活動されている。

**【磯田委員】**

八幡町内には、分厚い資料が3、4冊あり、それをベースに膨らませていくのではないかと思っている。

**【中澤委員】**

こういうものは、何をベースにするか、誰が語るか、というのが一番大事である。以前、ある町内で、町内の町史を作ったことがあった。これは、直江津町史や上越市史とは少し違うので、こういうものは、いろいろなところで大いに作ってもらいたい。この事業が、いろいろな活動のきっかけになってくれればいい。

**【青山恭造会長】**

では次に「No.7 直江津区小学生育成事業」についてはどうか。

**【田村雅春委員】**

直江津南小学校では、支柱の入れ替えが対象になっていない。ということは、それが市の見解なのだと思うが、提案団体では、このままでは危険であるという解釈をしている。その辺はどうなのか。

**【荒木係長】**

小学校の授業では使わず、学校開放の際に使っており、子ども達が帰った後に地域住民が実施している。

**【田村雅春委員】**

提案団体の方は、危険性が少ない支柱を購入したいと言っている。

**【荒木係長】**

小学生が使うにあたり、団体の方々は違うものを使いたいということが主である。

**【泉委員】**

担当課の所見を見る限り、新しく支柱を購入しても、使う方が自分たちで管理してください、普段は一切使わない、ということか。

**【青山恭造会長】**

それは質問で出していきたい。

**【磯田委員】**

一見すると、ある団体のスポーツクラブチームが自分たちの備品を整備したい、というふうを受け止められる。例えば、「バレーボール」というスポーツを広めていくことにより、地域の活性化や当事者たちにやりがいを与えていくというような話の中で、当団体が率先して何かを進めていく、拡げている仕掛けの中で提案してくるということであれば、ある程度検討する余地があると思うが、そこまでの話ではないような気がするの  
で、少し難しいのではないか。

**【青山恭造会長】**

問題なのは、この事業に便乗して、いろいろなスポーツ団体から提案が出てきてしまうかもしれない。

**【磯田委員】**

バレーボール協会のようなところと将来構想みたいなものを考えた上で提案してくるなら分かる。

**【滝澤センター長】**

学校の備品が古くなってきたから取り替えるということは、市の事業であるため、本来は、地域活動支援事業で提案することはできない。市が整備するものに関しては市で責任を取るが、団体が買い替える以上、団体が責任を取ることになる。

**【青山恭造会長】**

その件については、提案者へ説明してあるのか。

**【滝澤センター長】**

説明はしている。その際、管理は自分たちで行い、自分たちで貸し出しもしていくとのことだった。

**【増田副会長】**

この提案の問題は、ユニフォームである。統一管理をすると書いてあるが、この種の

ものは、統一管理するものではない。大体、個人で管理しているのではないか。

**【磯田委員】**

統一管理しているところもある。その都度レンタルしてユニフォームを借り、クリーニングをして戻すということをしている。

**【青山恭造会長】**

ユニフォームに関しては、今までの経過も考えながら採点していただきたい。

次に「No.8 福島城の顕彰事業」についてはどうか。

昨年、福島城の仮設資料館を見学し、団体の方たちとも意見交換をしたが、資料館については、今年、これまでの仮設のプレハブから旧デイホーム古城の建物に移転することである。

**【増田副会長】**

今まで、地域活動支援事業に提案してきた経緯がある。今回、古城小学校内に移るわけだが、移転先は、どれだけの展示スペースで、何をどのように展示するのか、日常的に誰でも見に行くことができるのか、管理は平日もやるのか、要請があった時にだけ開けるのか。その辺が全く分からない。

今までの経緯から行けば、その辺もきちんと説明してもらわないと、我々としてはよく分からないので、質問をしようと思っている。

**【青山恭造会長】**

では、そのようにお願いしたい。

次に「No.9 『なおえつ物語』発信事業」についてはどうか。

**【田村雅春委員】**

ジャンパーの管理方法がよく分からない。

**【泉委員】**

以前、ジャンパー作成の提案があり、団体がきちんと管理するという事で採択した経緯があったかと思うが、やはり、違和感がある。今後、他事業でもユニフォームやジャンパー等の提案が出てきて、取りとめのないようなところまで発展していくのではないかという危惧がある。もし、地域協議会の採択方針として、採択できないというものがあれば、早い段階で我々の結論を出さないといけないのではないか。

**【青山恭造会長】**

例えば、当提案をジャンパーだけは不採択、という採決の仕方もある。



**【田村雅春委員】**

購入したものは個人に渡されると思うが、管理の仕方をきちんと教えていただかないといけないと思う。

**【泉委員】**

行事の都度、個人に渡して、終わったら返してもらわなくてはいけないのではないかな。

**【増田副会長】**

当提案のジャンパーは、ユニフォームとは考え方が違うということだけ理解しておいていただきたい。

**【青山恭造会長】**

では、その辺も質問票で聞いていただきたい。

次に「No.10 船見公園夕日コンサート事業」についてはどうか。

(意見なし)

次に「No.11 《直江津港から元気発信》事業」についてはどうか。

**【磯田委員】**

平成26年度に大型看板を作成しているが、もう劣化しているというのはどういうことか。そして、平成27年度に作成した看板も張り替えるということ。減価償却も済んでいない内に、また新しいものを造るというのも疑問である。古くなるから建て替る、というのは分かるが、更新時期というものがあると思う。

**【田村雅春委員】**

平成26年度に看板を造った際、耐用年数についても質問をしたと思うが、磯田委員が言うように早すぎるような気がする。

**【田村利男委員】**

担当課からの所見としていろいろと書いてあるが、そのとおりだと思っている。

**【今川委員】**

看板の近くをよく通るので間近で何回か見ているが、管理が全くされていないように思う。土地もあまり整備されておらず、疑問に感じている。

**【泉委員】**

提案書に、まだ開館していない新水族博物館のことをPRする、と書いてある。何らかの考えがあるのではないかな。

**【増田副会長】**

そのことについては、新水族博物館整備課からも所見が来ている。

**【泉委員】**

看板が設置されているところを通る方たちは、長野の人が多いている。なので、前もって、新水族博物館のPRを考えているのではないかと考えている。

**【青山恭造会長】**

では、質問票で出していきたい。

次に「No.12 ビーチフェスティバル in なおえつ事業」についてはどうか。

**【田村雅春委員】**

開催日が9月10日（日）となっており、提案No.10の「船見公園夕日コンサート」は9月2日（土）となっている。近隣住民の方たちは承知しているのか。

そして、雪合戦の意味がよく分からないが、雪がない時に何故やる必要があるのか。

**【泉委員】**

ビーチバレーをやっている方から聞いたが、直江津の砂は格別に良く、全国的にも直江津にしかない砂とのことである。

**【滝澤センター長】**

雪合戦についてだが、上越市は雪室に非常に力を入れており、9月でも雪室に雪が残っているので、県大会に参加される方たちに、上越の雪を見せたい、ということから雪合戦を開催したいとのことである。

**【中澤委員】**

ステージはどこに設置するのか。併せて、ビーチバレーだけではなく、ビーチテニス、ラグビーもする、と書いてあるが、そのスペースがあるのか。そして、どれくらいの時間で準備するのか。

**【磯田委員】**

旧直江津銀行も使いたい、という相談を受けている。公開日ではないが、自主事業で開けるという話もしている。

全国大会や直江津で開催される大きな大会に併せたイベントを作りながら地域を盛り上げていくという趣旨だと理解すれば、大変意義のある事業だとは思っている。

実際の事業計画はまだ見ていないが、おそらく、各町内へ説明に行っていないのではないかと考えているが、JC（青年会議所）事業の一環だと思うので、やり遂げるのではないかと。そして、どれくらいの協力体制を作っていけるのかが成功の鍵だと思ってい

る。

**【増田副会長】**

実施主体がJ Cということで、単年度で担当者が代わることが懸念される。提案書に添付されている企画書に将来像が記載されているが、現在関わっている人たちが、そこまで責任を持ってやるのか。そこは質問で聞いてみたいと思っている。「活発なまちづくりができていくことを期待します」とあるが、自分たちが引っ張っていくのなら分かるが、他人任せのような感じがする。

そして、ビーチバレーボールマリンカップ大会の全国大会があると聞いた。来年も直江津で開催するのか。

**【泉委員】**

3年くらい前から毎年、直江津で開催している。

**【増田副会長】**

もし、来年なければ肩透かしになってしまう。

**【泉委員】**

かなり大きな大会なのに、近隣住民に話をしていないというのが理解できない。

**【中澤委員】**

大会を開催する、という話だけは聞いている。

**【青山恭造会長】**

では、その辺も質問票で聞いていただきたい。

次に「No.13 子どもたちのための「なおえつものがたり」〈地域食編〉事業」についてはどうか。

**【田村雅春委員】**

2,000部を直江津区内の小・中学校や交流拠点に配布するとあるが、そんなに使うのか。

**【中澤委員】**

いろいろな使い道があるのではないか。

**【青山恭造会長】**

では次に「No.14 佐渡寒ブリ祭り事業」についてはどうか。

**【増田副会長】**

継続事業については、来年、当補助金があるかどうか分からないが、あるとしたら、

どのように取り扱っていくかを話していきたいと思う。

**【今川委員】**

全体の事業に対しても言えることだが、100万円を超える大型の事業に関して、直江津区は企業協賛というのがほとんどない。なので、事業費としてほとんど補助金を使っている。他の地区では、企業協賛を使っているから、当補助金は余ると聞いている。直江津区も、そういう方向に進めていってはどうか。

**【中澤委員】**

他からの補助金がある場合は、当補助金を併用して使ってはいけないことになっている。それを謳ってはいけない。

**【今川委員】**

だが、いずれは、そういう方向に持っていかないと、自立はできないと思う。

**【青山恭造会長】**

協賛金を使うのであれば、自主財源として計上すればいい。

他に意見等はあるか。

(特になし)

では、以上で全体協議を終了とする。

続いて今後のスケジュールについて事務局へ説明を求める。

**【荒木係長】**

- ・質問票の締切日：5月19日（金）午後3時まで

**【青山恭造会長】**

- ・現在の残額に対し、二次募集を実施するか委員へ確認、実施することで委員から同意を得る。

**【田村利男委員】**

提案No.6とNo.13の冊子については、完成したら委員へも配布するよう要望していただきたい。

**【青山恭造会長】**

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

**【荒木係長】**

- ・次回協議会：5月29日（月）午後6時から
- ・資料No.2「平成29年度地域活動支援事業 直江津区 審査スケジュールについて（予

定)」に基づき説明

**【増田副会長】**

平成29年度の提案書と一緒に、平成28年度の提案事業の概要書が配付されたと思うが、今まで、地域協議会では、事業に対する検証を行ってこなかった。不明な点は事務局へ確認していただき、質問の際は、それを加味して質問していただきたい。

**【中澤委員】**

採択審議が始まってしまったので、視察研修は先になるか。

**【荒木係長】**

6月下旬から7月初めに掛けて実施しようと考えている。次回の協議会でお話できることがあればお伝えしたい。

**【青山恭造会長】**

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。